

平成 26 年度第 2 回村民意見交換会概要報告（父島）

今回の意見交換会は、村民対象の兄島視察会の報告を通じて世界遺産としての兄島の価値を説明した後、「遺産管理と村民生活との関わり」をテーマに関して行政側から取り組みの現状と課題を報告し、村民の皆様の意見をうかがいました。村民の皆様のご意見を、テーマごとに「主な意見・課題」と「行政機関の回答」として以下にまとめました。いただいたご意見は、今後開催される課題ワーキングの場で取り上げ、議論の進捗および結果を随時村民の皆様へフィードバックしていく予定です。

1. 遺産管理と村民生活との関わりについて

■事業の進め方について

【主な意見・課題】

- 兄島における殺鼠剤散布事業は、科学委員会としても了承されてきたものである。科学委員会が専門家縦割りの体制であり、全体を見渡す議論ができてこなかったことが問題だと思う。今後、科学史や人文系の専門家を含めた委員構成としてはどうか。
- 事業を行うにあたっては、歴史に学び、旧島民や子どもも含め幅広い人々の意見をきいてほしい。
- 村の公共事業における環境配慮指針作成の進捗はどうか？東京都は去年の説明会で、「見直しを行う」と言われたが、まだ見直されていない。
- 昔はコウモリもネズミも悪さをしなかった。サトウキビ畑を燃やしていたので、ネズミは増えなかった。対策を行うにしても歴史に学んだ方がよい。
- 色々なことを新島民だけで決めていくのはおかしい。旧島民の島なのに、南島に行くことも規制されるし、我々が歩道を整備した初寝浦では枝打ちも禁止、閉鎖して入れなくしてしまった。山も自由に入れなくなった。子どもも含めた多くの村民を呼んで、意見を吸い上げてほしい。

【行政機関の回答】

- ・今後、村民の視点を交えた管理のあり方は、検討する必要があると認識している（環境省）。
- ・現在の科学委員は特定分野の専門家である。この専門家よりもさらに客観的視点をもった第 3 者の選定は難しいところがある。個別の専門的な知見が必要な問題、たとえば、殺鼠剤散布に関しては、環境リスク検証のための第 3 者委員会を設置して検証を行うなどの枠組みが考えられる。いずれにせよ、地域の課題の取組については、専門家含めて同じ現場を見た上で話をする場を設けることが重要だと考えている（環境省）。
- ・検証委員会のメンバーは、農薬、環境影響評価、環境リスク評価の専門家を選定すると聞いている。ネズミ対策に限らず、村民生活に影響するような事業については、おそらく検証委員会のような方式を、今後は取らざるを得ないかと思う。今後、村も国に要望していきたいと思う。（小笠原村）

- ・環境配慮指針については、マニュアルを作成し試行を実施している。必要な対策は適宜行っている。
(東京都)
- ・村としての指針は作成していないが、東京都のマニュアルが完成すれば、それに準拠して取り組んでいくと思うが、いつから準じていくのかなどは、執行課に確認する。(小笠原村)

■農地と集落内のネズミ対策について

【主な意見・課題】

- 殺鼠剤を撒いていただいた畑では、以来ネズミが減っており、効果が出ていると感じる。ただ、時間が経つとまた出現する。殺鼠剤を食べる場所と食べない場所があり、場所による差も見られる。収穫期に被害が出なくなるか、今後も効果検証を継続していただきたい。
- ネズミの斃死体をカウントしていることを知らずに、各自で処理している村民も多い。「村道にあった死体は処理せず村役場に知らせる、都道にあった死体は各自処理してよい」ということを周知してほしい。
- 先日の雨でネズミの巣が流れたので河川付近でのネズミの目撃量は激減したが、自宅の近辺で激増した。河川を清掃すると生息地が周辺に移るだけである。
- 体力的に清掃が無理な場合や、ジャングルのような樹林帯に囲まれた家に対しては、補助を出していただけないか。

【行政機関の回答】

- ・ネズミの斃死体はゴミ収集の際に発見されれば、村の建設水道課に連絡が入り、回収に行っている。
(小笠原村)
- ・見逃された死骸があった場合、村役場に報告していただきたい。(小笠原村)
- ・都道に落ちていた死骸はカウントしていないので、各自埋める等処理をしていただいても構わない。
(東京都)
- ・都道・村道のネズミ斃死体については、対応や処理方法など整理して村民に周知する。(小笠原村)
※ネズミ斃死体のカウントは村道のみで行っているなど、都道・村道で対応が異なるため、整理してから周知を検討する。
- ・河川を清掃すると生息地が周辺に移ることについては、根本的な解決にはなっていないが、ご自分の管轄地の周辺は頻度高く清掃してほしい。(小笠原村)
- ・体力的に清掃が無理な場合や、ジャングルのような樹林帯に囲まれた家に対しては、対応を検討する。カゴ罠にかかった生きたネズミの処理は、母島でも要望があったが、対応が難しい。何でも行政でできるわけではないが、検討はしていきたい。(小笠原村)

■村民意見交換会について

【主な意見・課題】

- ドック中の開催では参加しにくい人もいるので、ドック明けに再度開催してほしい。
- 殺鼠剤に関する話もあったのに、農業者がこの場にいらしていない。農業者には別途説明しているのか？この場に議員が一人も出ていないのは問題だと思う。

【行政機関の回答】

- ・以前、ドック中の開催がよいと意見をいただいたため、今回はドック中に開催したが、平日なども含めて今後開催時期は事務局で検討したい。また、数多く開催したほうが良いとは考えている。(小笠原村)
- ・今後、声かけ、周知方法を工夫したい。(小笠原村)

■樹木の病害虫対策について

【主な意見】

- 沿道のアカギ（例えば、消防署の後方の三角公園そばの木）が、カイガラムシで真っ黒になっている。対策は行われているか？カイガラムシは、レモン等柑橘全般に被害をもたらす、景観としてもよくないので対応してほしい。農業センターは何も対応していないのではないかと。研究を行ってほしい。
- 林内も今は外来樹や病害虫被害にあった樹木だらけで、とても世界遺産とはいえない状況である。山に水が少なくなったことも原因かもしれない。昔は10種類以上食べられる果実等があったが、様変わりしてしまった。

【行政機関の回答】

- ・農業センターの対策については、確認する。(東京都)
- ・樹木の病害虫といった自然界のものが農地内に影響を与えるのであれば、土地の管理者や遺産事務局と自然界の処理について何ができるか考えてみたい。(小笠原村)

2. 遺産関連施設について

【主な意見】

- 遺産センターの場所選定は、津波のことを考えていないだろう。西ノ島新島の火山活動も活発になっており、津波の危険性は高まっているので、再考いただきたい。
- 自然遺産を見に来た観光客は、雨の場合行く場所がなく、遺産の価値がなんだかわからないままになってしまう。村のためにも、わざわざ外国から来た人のためにも、遺産の価値を簡単に見せられる施設が必要ではないか。
- 観光ガイドのガイド内容を見直す必要があると思う。歴史に関する話をしないのは問題である。

【行政機関の回答】

- ・遺産センターは、保全対象種を見ながら遺産の価値や対策・管理の在り方を考えられる場としたいし、雨天時などの学生の勉強の場としてプログラムを作りたいと思う。(環境省)
- ・村としてもできることを考えていきたい。(小笠原村)